

平成7年度
年報

北海道立文学館
HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE



文学館全景

沿革

- 昭和62年9月 北海道立文学館（以下、文学館と略）期成会が設立される。
- 昭和63年11月 財団法人北海道文学館設立が認可される。
- 平成2年3月 文学館設置調査費が議決される。
- 平成2年8月 文学館設置検討委員会が設置される。
- 平成3年3月 文学館設置検討委員会報告書が作成される。
- 平成3年10月 文学館基本構想が策定される。
- 平成4年2月 札幌市中央区中島公園内道有地が建設予定地に決定する。
- 平成4年4月 構想設計コンペ審査委員会が開催される。
- 平成4年11月 基本設計がまとまる。
- 平成5年1月 実施設計がまとまる。
- 平成5年7月 建設工事に着工。
- 平成6年12月 建設工事が完成。
- 平成6年12月 北海道立文学館利用規則が公布される。
- 平成7年1月4日 北海道立博物館条例が施行される。
- 平成7年4月1日 財団法人北海道文学館が北海道教育委員会より文学館の管理運営を委託される。
- 平成7年9月22日 開館記念式典が挙行される。
- 平成7年9月23日 一般公開される。

平成7年度年報目次

■ 沿 革	2
■ 開館までの経緯	4
■ 開館記念式典等	5
■ 平成7年度事業報告	
【展覧会事業】	6
常設展 北海道文学の流れ	6
開館記念特別企画展 北の夜明け—海峡を越えた探検家・紀行家たち—	11
所蔵品展 私の愛した抒情詩人たち—高橋留治・詩集コレクションから—	12
【教育・普及事業】	15
文芸講演会／文芸セミナー	15
母と子の文学のつどい「ようこそ、賢治の教室へ」	16
【資料収集・整理・保存事業】	17
平成7年度資料収集状況	17
平成7年度購入の主な特別資料	18
【調査・研究事業】	20
研究紀要の発行	20
北海道文学ライブラリーの発行	20
■ 平成7年度文学館利用状況	21
展覧会別観覧状況	21
閲覧室利用状況	22
■ 組織及び職員	23
組織機構図	23
財団法人北海道文学館役員の状況（平成7年度）	23
北海道立文学館収集資料選定評価専門委員会（平成7年度）	24
職員名簿（平成7年度）	24

■ 開館までの経緯 ■

年次	事項
昭和42	北海道文学館設立総会、館報1号発行、有島武郎文学展
43	文学に見る北方風物展
44	北海道旅の文学展
45	伊藤整・亀井勝一郎文学展
46	北海道詩歌展
47	目で見る札幌文学散歩
48	藤村における旅資料展、久保栄文学展、札幌の文学・百年展
49	文学にみる札幌風物展、北海道女流文学展、小田観螢・人と作品展
50	札幌の作家展（戦前の巻）、戦後30年・北海道文学展、札幌の作家展（戦後の巻）、川柳に見る戦後の札幌展
51	碑にみる北の文学展、林不忘・長谷川四郎兄弟展、石狩川流域文学展、歌人・山下秀之助展
52	札幌の文学サークル展、文学展・北の海、札幌・戦後演劇展
53	文学展・ふるさとの窓、北海道児童文学展、さっぽろの俳句展
54	札幌市資料館に館看板掲示、現代北海道短歌展、風土のなかの文学碑展、「北海道文学地図」発行
55	現代北海道俳句展、北海道岬文学展、児童文学と絵日記展—石森延男・その周辺—
56	雑誌「北方文芸」展、石森延男児童文学展、館所蔵文芸雑誌閲覧開始、北海道岬・文学展、高橋留治氏から3000余冊の詩書等寄贈、北海道文学全集展
57	島木健作文学展、船山馨文学展、船山馨文学展、北海道・湖文学展、鮫島交魚子・加藤愛夫文学展
58	寺田京子・宮田益子・森みつ三人展、文学展・大地と人間、にんげん坂本直行展—その絵と文学—
59	北海道児童文学全集展、北海道演劇資料展
60	北海道文学展示室が常設展に移行、北海道俳句展、北原白秋展、文学にみる北方風物展、更科源蔵理事長死去、「北海道文学大

年次	事項
	事典」発行、地域文化功労者賞受賞
昭和61	日本の文学館風景展、和田謹吾理事長就任、歌誌「原始林」40周年記念展、「石川啄木と野口雨情」文学風物展、石森延男と札幌の児童文学展、詩誌「核」30周年記念展、「北海道文学百景」「北海道文学絵はがき」発行
62	北海道文学館歩み展、北海道文学館20周年記念祝賀会および記念展、俳句誌「水原帯」創刊40周年記念展
63	北海道歌人会創立35周年記念展、北海道新聞文学賞展、「北海道文学読本」発行、没後30年久保栄文学展、近代日本の文豪—森鷗外展、財団法人北海道文学館設立
平成元	胆振文学展・目で見る風土と文学、俳句誌「葦牙」創刊700号記念展、北海道女流作家第一号森田たま展、北海道川柳展、作家生活25年記念三浦綾子展（札幌、旭川）
2	児童文学「新十津川物語」展（札幌、新十津川）、移動展・石川啄木と野口雨情展、文化情報誌「ニュースきょうどう・カムイミントラ」展、歌誌「新墾」創刊60周年記念展、北のロマンを奏でる—渡辺淳一文学展、市町村文芸誌展—道東・道北編
3	市町村文芸誌展—道央・道南編、移動展・石森延男と室蘭の児童文学展、文学展・北海道花の歳時記、来道60年記念斎藤茂吉展、文芸誌「赤煉瓦」とその周辺展
4	北電文化誌「フロンティア」著名作家原稿展、文学展・北海道花の歳時記（室蘭）、北の文学風物誌展（冬の巻）、らいらっく文学賞展
5	俳句誌「アカシヤ」500号記念展、札幌文学散歩展、没後25年・道立文学館着工記念伊藤整文学展、北海道詩人協会40周年記念展
6	文学・北の歳時記展、文学展・札幌線沿線の旅、北の山と文学展、和田謹吾理事長死去
7	澤田誠一理事長就任、北海道立文学館開館

■ 開館記念式典等 ■

北海道立文学館開館記念式典は、平成7年9月22日(金)13時からホテルアカシヤ2階にれの間に会場に、多くの来賓、関係者が出席して実施された。式典に続いて、新築なった文学館へと会場を移し、14時からは開館記念展のオープニング・セレモニーを挙行。出席者が常設展「北の夜明け」と開館記念特別展「北の夜明け―海峡を越えた探検家・紀行家たち―」を観覧後、15時からアカシヤ3階はまなすの間で開館記念祝賀会が催された。なお、以上の展覧会は翌23日(土)から一般公開された。

開館記念式典

日時 平成7年9月22日(金)午後1時
場所 ホテルアカシヤ2階にれの間

式次第

■ 開会のことば

北海道教育庁生涯学習部文化課長
間野 幹 生

■ 国歌斉唱

■ 式辞

北海道教育委員会委員長
櫻井 護 夫

■ 挨拶

北海道知事
堀 達 也

■ 工事報告

北海道住宅都市部営繕室長
渡部 弘 文

■ 感謝状贈呈

北海道教育委員会教育長
南原 一 晴

■ 来賓祝辞

北海道議会議長
中川 義 雄

札幌市長
桂 信 雄

■ 祝電披露

■ 閉会のことば

北海道教育庁生涯学習部文化課長
間野 幹 生

開館記念展開会式

日時 平成7年9月22日(金)午後2時
場所 北海道立文学館 地下1階ホール

式次第

■ 開会挨拶

財団法人北海道文学館理事長
澤田 誠 一

■ テープカット

北海道知事
堀 達 也

北海道議会議長
中川 義 雄

北海道教育委員会委員長
櫻井 護 夫

札幌市長
桂 信 雄

北海道新聞社代表取締役会長
北川 日出治

財団法人北海道文学館理事長
澤田 誠 一

北海道立文学館館長
木原 直 彦

■ 特別観覧

先導 財団法人北海道文学館理事長
澤田 誠 一

北海道立文学館館長
木原 直 彦

開館記念祝賀会

日時 平成7年9月22日(金)午後3時
場所 ホテルアカシヤ3階はまなすの間

式次第

■ 開会挨拶

財団法人北海道文学館理事長
澤田 誠 一

■ 挨拶

北海道知事
堀 達 也

北海道教育委員会教育長
南原 一 晴

前北海道知事
横路 孝 弘

■ 祝杯

北海道議会議長
小田原 要四蔵

■ 祝宴

■ 乾杯

北海道立文学館建設期成会会長
伊藤 義 郎



■ 平成7年度事業報告 ■

常設展

北海道文学の流れ

はじめに

常設展示室（約400㎡）の展示は、30年余の歳月をかけて（財）北海道文学館が収集・保存に努めてきたおよそ20万点の文学資料のうちから精選した約1800点の図書・雑誌及び直筆資料（原稿・書簡類・短冊等）と写真パネル・解説パネル等からなり、さらに文学地図、直筆原稿ボックス等を併せて展示室の全体を構成している。

平面図（10頁）に示すとおり、「札幌農学校と有島武郎」から始まる壁面ケース内の展示は、一般的な文学の諸ジャンルのうち近現代の小説・評論等（散文）を、テーマを設けつつ通史的に流れをたどることができるような配列に努めた。

フロア部分の6つのブロックは、それぞれ平置ケース4台（ないし2台）と仕切展示壁面とからなり、ジャンル（ないし種別）は9種である。

以下に、この常設展示室の各コーナーの概要と、図書・雑誌資料を中心とした主な出陳資料とを記録しておく。なお、〔 〕内は構成担当者氏名（敬称略）。



有島武郎書簡(母幸子宛、明治40年)

【札幌農学校と有島武郎】〔高山亮二〕

ウィリアム・S・クラークの事蹟によって端的に知られるように、札幌農学校（現、北海道大学。明治9年開校）の存在と活動は、北海道の文化形成に極めて大きな影響を与えた。その農学校に学び、のちに東北帝国大学農科大学（のちの北大）となった母校の教壇に立って多くの後進を育成し、文学者・思想家として日本近代史に刻まれる仕事を残した有島武郎について、内村鑑三、新渡戸稲造、森本厚吉、ティルダ・ヘックらとの交流を含め、通算12年間にわたる本道在住期を中心にその足跡を概観した。

【北海道文学の流れ—明治・大正期】〔木原直彦〕

壁面に沿って次の7つのコーナーで構成した。コーナー標題と取り上げた主な文学者・関連人物名、事項名を掲げておく（以下同）。

* 「空知川の岸边」国木田独歩

国木田独歩、佐々城信子

* 開拓期を彩る作家群

岩野泡鳴、幸田露伴、長田幹彦、島崎藤村、葛西善蔵、徳富蘆花ほか

* 漂泊の人・石川啄木

石川啄木、石川節子、橘智恵子、野口雨情ほか



常設展「北海道文学の流れ」

* 有島武郎をめぐる人々

有島武郎、有島生馬、里見淳、武者小路実篤、志賀直哉

* 道産子作家誕生

武林無想庵、岡田三郎、森田たま、中戸川吉二、中村武羅夫、子母沢寛、素木しづ、長谷川海太郎

* 同人雑誌群

「路上」「路傍人」「君影草」「白夜」「歩み」ほか。

* 来道作家の足跡（大正期）

文学地図（足跡図）一吉屋信子、宮本百合子、橋外男、宮沢賢治、宇野千代、長田幹彦、久米正雄ほか

【北海道文学の流れ—昭和前期】〔西村信〕

「明治・大正期」と同様に5つのコーナーで構成した。

* プロレタリア文学の潮流

葉山嘉樹、小林多喜二、久保栄、小熊秀雄、島木健作、本庄陸男ほか

* 若い詩人の肖像

伊藤整、川崎昇ほか

* 来道作家の足跡（昭和前期）

芥川龍之介、里見淳、鶴田知也ほか

* 農民文学の世界

吉田十四雄、辻村もと子、板東三百、早川三代治、坂本直行ほか

* 戦時下の文学

林容一郎、中津川俊六、八木義徳、寒川光太郎ほか

【北海道文学の流れ—昭和後期】〔神谷忠孝〕

先の2つと同様に6つのコーナーで構成した。

* 戦後文学の展開

風巻景次郎、武田泰淳、宇野親美、中沢茂、澤田誠一、木野工ほか

* さまざまな座標Ⅰ

船山馨、亀井勝一郎、八木義徳、和田芳恵、長谷川四郎、李恢成、重兼芳子、高橋揆一郎、小檜山博ほか

* 旋風をおこした作家たち

原田康子、三浦綾子、渡辺淳一

* さまざまな座標Ⅱ

荒巻義雄、藤堂志津子、佐藤泰志、川又千秋、佐々木譲、土居良一ほか

* 来道作家の足跡（昭和後期）

福永武彦、戸川幸夫、新田次郎、水上勉、開高健、大江健三郎ほか

* 活躍する作家たち

三浦清広、加藤幸子、沖藤典子、久間十義、見延典子、辻仁成、谷村志穂



久保栄「火山灰地」自筆原稿



「北方文芸」創刊号
(昭和43年)

以下には、フロア部分の6ブロック9ジャンルについての概要を上と同様略記しておく。



戦後発行された詩誌群

【北海道の詩】〔永井浩〕

- * 草創期
児玉花外、高村光太郎、三木露風、宮沢賢治、北原白秋
- * 生成期
更科源蔵、吉田一穂、左川ちか、猪狩満直、鈴木政輝、加藤愛夫、和田徹三ほか
- * 戦争と詩
百田宗治、今井鴻象、鷺巣繁男、三谷木の実、牧章造ほか

【北海道の短歌】〔田村哲三〕

- * 北海道歌壇の動き
山下秀之助、酒井広治、小田観螢、中城ふみ子ほか
- * 来道歌人
斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか
- * 口語短歌
鳴海要吉、石川啄木ほか
- * アイヌの歌人
バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市ほか

【北海道の俳句】〔木村敏男〕

- * 北方俳句の夜明け
松窓乙二、河東碧梧桐、牛島藤六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか
- * 俳句近代化への潮流
荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか
- * 花ひらく北の俳句
斎藤玄、寺田京子、比良暮雪、佐々木丁冬ほか
- * 俳句の現代
比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

【アイヌの口承文芸】〔藤本英夫〕

- 金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

【北海道の川柳】〔斎藤大雄〕

* 明治～昭和前期

鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか

* 昭和後期～平成7年

西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子

* 北海道の川柳社

道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

【北海道の児童文学】〔柴村紀代〕

* 明治～昭和20年代

伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか

* 昭和30年代

石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか

* 昭和40年代以降

加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

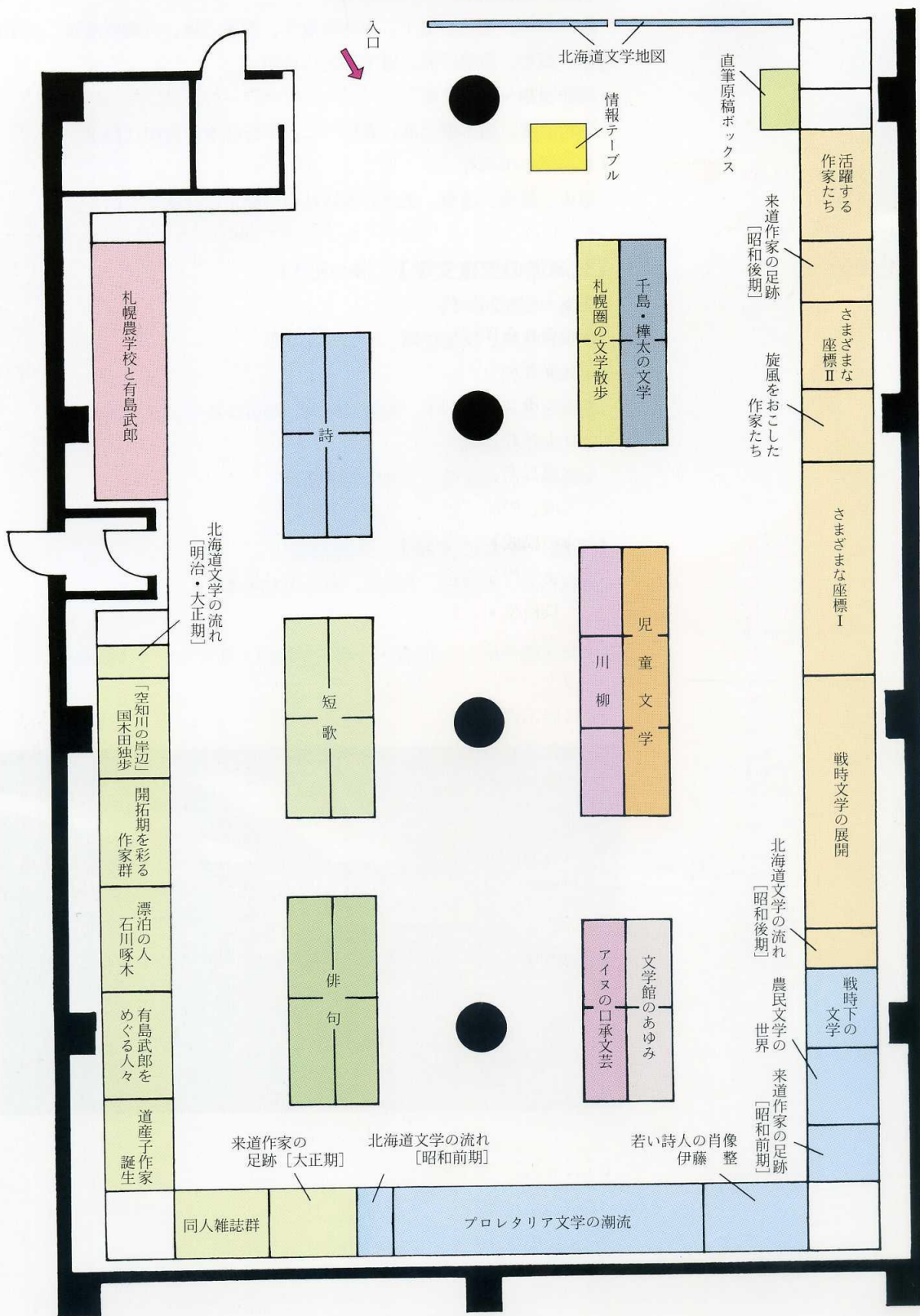
【千島・樺太の文学】〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

「文学館の歩み」「札幌・小樽文学地図」等については割愛。



常設展示室平面図

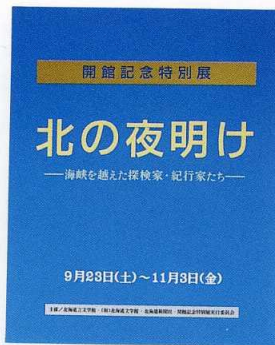


開館記念特別企画展

北の夜明け ～海峡を越えた探検家・紀行家たち～



開館記念特別展会場



会場入口の案内看板

【会 場】 当館特別展示室

【開催期間】 平成7年9月23日（土）～11月3日（金）（36日間）

【主 催】 北海道立文学館、財団法人北海道文学館、北海道新聞社、
開館記念特別展実行委員会

【内 容】 江戸中期から幕末期にかけ当時〈蝦夷地〉と呼ばれていた北海道に渡ってきた探検家や紀行家、また商人たちの歴史的活動やユニークな生き方に想像力をかきたてられ、これら探検家・紀行家たちを主人公にするなどして作品化した小説家や詩人たちの活動について紹介した。また、これら探検家・紀行家らの足跡をたどり、彼らの残した句や歌、紀行文などからすぐれた文学性を備えているものも取り上げ、関連の実物資料と併せて紹介した。

取り上げた主な人物は次の8人である。

高田屋嘉兵衛、間宮林蔵、伊能忠敬、最上徳内、近藤重蔵、
菅江真澄、松浦武四郎、榎本武揚

【全体の構成】 次の三部構成とした。

- 1) 文学作品にみる幕末の探検家・紀行家たち
- 2) 探検家・紀行家たちとその時代
- 3) 文人墨客としての軌跡

以上のほか、北方探検史略年表も加えた。

【主な展示資料】 久保栄、司馬遼太郎、吉村昭、童門冬二、北方謙三、安水稔和による関連直筆原稿、及びこれら作家・詩人のほか瓜生卓蔵、寒川光太郎、安部公房、井上ひさしらの関連著作（図書・雑誌）を展示した。

これらのほか、最上徳内『蝦夷草紙』（北海道大学附属図書館蔵）、近藤重蔵書翰（市立函館図書館蔵）、松浦武四郎の用いた矢立・煙草入れ（松浦武四郎記念館蔵）など借用資料を中心とする実物資料や、中野北溟、松本暎子の書（松浦武四郎詠）、三代歌川広重の「北海道新道切開」など浮世絵も展示した。

【印刷物】 ・広報用ポスター、同チラシ

- ・図録 北海道立文学館開館記念特別展図録『北の夜明け
～海峡を越えた探検家・紀行家たち～』

B5判、52頁

【観覧者数】 3,983人

所蔵品展

私の愛した抒情詩人たち～高橋留治・詩集コレクションから～



故 高橋留治氏



所蔵品展会場

【会場】 当館特別展示室

【開催期間】 平成8年1月16日（火）～3月17日（日）（54日間）

【内容】 故・高橋留治氏（1911～1984）より昭和56年に受贈した（財団法人北海道文学館）3,000余点の近・現代詩集を中心とした収蔵資料のうちから、故人が愛した詩人たち30余人を精選し、文学史に残る彼らの詩業を概観しながら、近代抒情詩の魅力を再発見する。併せて堀口大学はじめ多くの文学者と故人の交流の模様も、宛書簡などを通じて紹介する。

また、この機会に、伊藤整、鷺巣繁男のご遺族、和田徹三氏から寄託・寄贈を受けた新規収蔵資料についても披露する。

【全体の構成】

- 1) 高橋留治と詩集コレクション、堀口大学と高橋留治の交流、宮崎丈二と高橋留治の交流のそれぞれについて解説を加え紹介。
- 2) コレクションにみる近代日本の抒情詩人たち
北原白秋『おもひで』、萩原朔太郎『月に吠える』、佐藤春夫『殉情詩集』、金子光晴『こがね虫』など初版詩集の展示を通じて22人の詩人を紹介。
- 3) コレクションにみる北海道の抒情詩人たち
吉田一穂『海の聖母』、小熊秀雄『飛ぶ橈』、更科源蔵『河童暦』など初版詩集の展示を通じて、北海道生まれの9人の詩人を紹介。
- 4) 伊藤整詩集『雪明りの路』草稿ノートなど（新規寄託資料）、鷺巣繁男直筆原稿「聖なるものとその変容」、和田徹三墨書作品及び処女詩集『門』など（新規収蔵資料）を展示。

【主な展示資料】 次頁に一括掲載。

【印刷物】 ・広報用ポスター、同チラシ
・リーフレット B5判、6頁

【観覧者数】 951人

第1回所蔵品展出品資料一覧

〔 著作者名の後は図書（☆は資料）・発行所
・発行年の順 〕

高橋 留治 評伝無冠の詩人宮崎丈二・北書房・昭和49／☆堀口大学「評伝無冠の詩人宮崎丈二」の帯への原稿（額入り）／『セルパン』と詩人たち・北書房・昭和58／市井荘散人蔵書目録／☆福原麟太郎 留治宛書簡、志賀直哉 留治宛ハガキ・昭和47

堀口 大学 月光とピエロ・靑山書店・大正8／新しき小径・アルス・大正11／砂の枕・第一書房・大正15／ヴェニウス生誕・裳鳥会・昭和9／人間の歌・宝文館・昭和22／堀口大学訳 月下の一群・第一書房・昭和2／堀口大学訳 アポリネール動物詩集・第一書房・大正14／堀口大学訳 ボードレール 悪の華 上・下・第一書房・昭和26／堀口大学詩集・五月書房・昭和54／☆堀口大学 留治宛書簡

宮崎 丈二 爽やかな空・新新社・大正13／白猫眠る・やぼんな書房・昭和6／太陽の娘・太虚堂詩画房・昭和3／南方の精神・青磁社・昭和17／花籠・赤坂書店・昭和21／燃える翼・アポロン社・昭和32／宮崎丈二全詩集・古川書房・昭和48／☆留治宛書簡・ハガキ、宮崎丈二画「花籠」軸装、宮崎丈二画「ぶどう」、宮崎丈二短冊 4点

北原 白秋 邪宗門・易風社・明治42／抒情小曲集 おもひで・東雲堂書店・明治44／東京景物詩及其他・東雲堂書店・大正2／絵入童謡第六集 子供の村・アルス・大正14／純情詩集 銀の花籠・宝文館・昭和4／柳河風物詩・富岳本社・昭和21

萩原朔太郎 月に吠える・感情詩社・大正6／青猫・新潮社・大正12／純情小曲集・新潮社・大正14／氷島・第一書房・昭和9／散文詩風のロマン 猫町・版画店・昭和10／遺稿詩集・小学館・昭和22

高村光太郎 道程・抒情詩社・大正3／智恵子抄・龍星閣・昭和16／智恵子抄 その後・龍星閣・昭和25／典型・中央公論社・昭和25／高村光太郎全詩集・新潮社・昭和41

山村 暮鳥 三人の処女・新声社・大正2／聖三稜玻璃・にんぎょ詩社・大正4／風は草木にささやいた・イデア書院・大正13／暮鳥詩集・厚生閣書店・昭和3／黒鳥集・昭森社・昭和35
川路 柳紅 路傍の花・東雲堂書店・明治43／かなたの空・東雲堂書店・大正3／抒情小曲 温室の花・交蘭社・大正11／小曲詩集 海の微風・新詩壇社・大正14／抒情小曲集 巴里詩抄・白井書房・昭和22／無為の設計・富岳本社・昭和22／川路柳紅訳 ヴェルレーヌ詩抄・白井社・大正4

千家 元麿 自分は見た・玄文社・大正7／虹・新潮社・大正8／新生の悦び・芸術社・大正10／千家元麿詩集・新しき村出版部・大正14／霧・やぼんな書房・昭和6

佐藤惣之助 正義の兜・天絃堂書房・大正5／満月の川・叢文閣・大正11／自然詞華 荒野の娘・大鏡閣・大正11／華やかな散歩・新潮社・大正11／海洋詩集 颯風の眼・アルス・大正12／情艶特集・新潮社・大正15

西条 八十 砂金・尚文堂・大正8／抒情小曲集 海辺の墓・稲門堂書店・大正11／巴里小曲集・交蘭社・大正15／西条八十詩集・第一書房・昭和2／抒情詩抄・生活社・昭和20／西条八十訳 白孔雀・尚文堂書店・大正9

佐藤 春夫 殉情詩集・新潮社・大正10／佐藤春夫詩集・第一書房・昭和8／魔女・以土帳印社・昭和7／小曲集 佐久の草笛・東京出版・昭和21／定本 佐藤春夫全詩集・創元社・昭和27

金子 光晴 こがね虫・新潮社・大正12／鮫・人民社・昭和12／落下傘・日本未来派発行所・昭和23／蛾・北斗書院・昭和23／女たちのエレジー・創元社・昭和24／鬼の児の唄・十字屋書店・昭和24

川上 澄生 ゑげれすいろは詩集・以土帳印社／画集ゑげれすいろは・以土帳印社・昭和31／*The Dog and the Image*・以土帳印社／*The Wind and the Sun*・以土帳印社／*The Bird the beasts and the Bad*・以土帳印社

深尾須磨子 真紅の溜息・三徳社・大正10／斑猫・新潮社・大正14／イヴの笛・むらさき出版部・昭和11／永遠の郷愁・臼井書房・昭和21／深尾須磨子詩集・三一書房・昭和27

室生 犀星 愛の詩集・感情詩社・大正7／抒情小曲集・感情詩社・大正7／寂しき都会・聚英閣・大正9／忘春詩集・京文社・大正11／故郷図絵集・椎の木社・昭和2／鶴・素人社書屋・昭和3

百田 宗治 一人と全体・表現発行所・大正5／抒情小曲 新月・玄文社・大正10／何もない庭・椎の木社・昭和2／ぱいぷの中の家族・金星堂・昭和6／山川草木・白都書房・昭和21

尾崎 喜八 空と樹木・玄文社詩歌部・大正11／曠野の火・素人社・昭和2／旅と滞在・明文社・昭和8／残花抄・玄文社・昭和23／花咲ける孤独・三笠書房・昭和30

北川 冬彦 戦争・厚生閣書店・昭和4／氷・蒲田書房・昭和8／蛇・爐書房・昭和22

高橋 新吉 ダダイスト新吉の詩・中央美術社・大正12／抒情小曲集 祇園祭り・紅玉堂書店・大正15／日食・素人社書屋・昭和9／霧島・版画荘・昭和17／胴体・緑地社・昭和31

西脇順三郎 *Ambarvalia*・椎の木社・昭和8／旅人かへらず・東京出版・昭和22／近代の寓話・創元社・昭和28／えてるにたす・昭森社・昭和37／禮記・筑摩書房・昭和42／西脇順三郎詩画集・詩学社・昭和47

田中 冬二 青い夜道・第一書房・昭和4／海に見える石段・第一書房・昭和5／山鳴・第一書房・昭和10／故園の歌・アオイ書房・昭和15／春愁・岩谷書店・昭和22

丸山 薫 帆・ランプ・鷗・第一書房・昭和7／鶴の葬式・第一書房・昭和10／一日集・版画荘・昭和11／物象詩集・河出書房・昭和16／仙境・青磁社・昭和23

三好 達治 測量船・第一書房・昭和5／南窗集・椎の木社・昭和7／艸千里・四季社・昭和14／一点鐘・創元社・昭和16／駱駝の瘤にまたがって・創元社・昭和27

草野 心平 第百階級・銅鑼社・昭和3／蛙・

三和書房・昭和13／富士山・昭森社・昭和18／日本沙漠・青磁社・昭和23／マンモスの牙・思潮社・昭和41

吉田 一穂 海の聖母・金星堂・大正15／故園の書・厚生閣書店・昭和7／定本吉田一穂詩集・羅甸薔薇・山雅房・昭和25

時雨 音羽 民謡集 うり家札・米本書店・大正13／民謡歌集 出船の港・京文堂・昭和4／民謡歌集 花に滲ませて・豆本（奥付欠）

小熊 秀雄 小熊秀雄詩集・耕進社・昭和10／長編叙事詩集 飛ぶ櫓・前奏社・昭和10／流民詩集・三一書房・昭和22／小熊秀雄全詩集・思潮社・昭和40

加藤 愛夫 幻虹・北海道詩人協会・昭和36／夕陽無限・北書房・昭和47／詩文集 バイエルンの秋・情緒刊行会・昭和52

更科 源蔵 凍原の歌・フタバ書院成光館・昭和18／河童暦・ぐるす文庫私版・昭和27／無明・さるるん書房・昭和27／更科源蔵詩集・北海道書房・昭和36／原野・更科源蔵・昭和42

竹内てるよ 花とまごころ・溪文社・昭和8／静かなる愛・第一書房・昭和15／永遠の花・六都書店・昭和21／少女詩集 銀の逸矢・利根屋書店・昭和22／いのちの歌・白林社・昭和26

伊藤 整 雪明りの路・椎の木社・大正15／☆雪明りの路 草稿ノート3冊、雪明りの路 草稿／冬夜・インテリゲンチャ社・昭和12／伊藤整詩集・角川書店・昭和42

入江 好之 凍る季節・北書房・昭和43／少年詩集 花と鳥と少年・北書房・昭和51／ひとつの歴史・北書房・昭和51

河邨文一郎 天地交驪・詩と詩人社・昭和24／山巔の火・詩と詩人社・昭和26／湖上の薔薇・ユリイカ・昭和33／物質の真昼・凡書房・昭和34／北の詩集 雪と薔薇・北書房・昭和42

小学唱歌集 3冊・高等師範音楽学校・明治17
幼稚園唱歌集 東京音楽学校・明治20
新鉄道唱歌（全） 第一輯～第十輯・東京日々新聞・昭和4

平成7年度教育・普及事業

■文芸講演会

【会 場】 当館講堂

【日 時】 平成8年2月10日（土）午後2時～4時

【演 題】 金子光晴「鬼の児」の詩学

【講 師】 河邨文一郎（詩人）

【聴講者数】 120人



文芸講演会

■文芸セミナー

[第1回]

【会 場】 当館講堂

【日 時】 平成7年12月2日（土）午後2時～4時

【演 題】 近藤潤一の俳句

【講 師】 菱川善夫（北海学園大学教授）

【聴講者数】 90人

[第2回]

【会 場】 当館講堂

【日 時】 平成8年1月20日（土）午後2時～4時

【演 題】 船山馨の文学

【講 師】 神谷忠孝（北海道大学教授）

【聴講者数】 80人



第1回文芸セミナー



第2回文芸セミナー

■母子の文学のつどい「ようこそ賢治の教室へ」

【会 場】 当館特別展示室及び講堂

【開催期間】 平成8年3月26日（火）～4月7日（日）（12日間）

【主 催】 財団法人北海道文学館

【内 容】



「ようこそ賢治の教室へ」会場入口

- 1) 特別展示室では、宮沢賢治の童話の世界に親子で親しんでもらうことを目的に、会場を昔の教室風にアレンジし、絵本や原画、賢治の生い立ちを紹介する写真・解説パネルなどを展示した。
- 2) 特別展示室の一角に「読み聞かせコーナー」を設け、札幌市学校図書館地域開放協議会所属の有志グループによる紙芝居、人形劇の演示、絵本や童話の読み聞かせなどを行った。
- 3) 講堂では、宮沢賢治作品のビデオ上映を会期中1日2回（午前・午後）実施した。
- 4) 宮沢賢治をめぐる連続講座（4回）を当館講堂において下記の日程・講師・演題で実施した。

〔第1回〕 3月26日（火） 加藤多一（児童文学者）
「かわいい賢治の歌のわかれ」

〔第2回〕 3月29日（金） 工藤正広（北海道大学教授）
「〈賢治語〉の、ひみつ」

〔第3回〕 4月2日（火） 齊藤征義（詩人）
「『せはしくせはしく明滅する』詩」

〔第4回〕 4月5日（金） 柴村紀代（児童文学者）
「〈語り〉の構造—童話から少年小説へ—」

【印刷物】 ・広報用ポスター、同チラシ
・講座用レジュメ

【観覧者数】 999人（読み聞かせ・ビデオ上映入場者数を含む）

【連続講座受講者数】 延べ230人

平成7年度資料収集状況

平成7年度資料収集は下表に示すとおりであるが、常設展「北海道文学の流れ」の展示に要するレプリカを含め8,000点を超える資料数となった。レプリカの製作件数が27件と多いのは、開館初年度であるという事情による。以下、収集した購入資料、寄贈・寄託資料についての内訳表と資料リストを掲げておく。

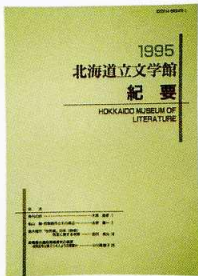
北海道立文学館収集資料内訳

種 別	点 数	種 別	点 数
特別資料 受贈	144	特別資料 受託	0
内 原稿	50	図書 受贈	1,636
書簡	42	図書 購入	1,153
色紙・短冊	39	雑誌 受贈	4,082
その他	13	雑誌 購入	841
特別資料 購入	210	VTR、テープ	35
内 原稿	30	計	8,101
書簡	20		
色紙・短冊	9	レプリカ	27(件)
その他	151		

平成7年度購入の主な特別資料

種別	作家名	資料名	形態	数量
書籍	亀井勝一郎	北方の正月の思い出	原稿用紙	3枚(400字)
自筆原稿	島木健作	轉向者の一つの場合	綴本	68枚(400字)
書	和田徹三	時間の継ぎ目から…	額装・軸装	1
書	和田徹三	時の詩〈光年の煌きが…〉	額装・軸装	1
自筆原稿	林 不忘	国枝史郎氏論—苦笑する国枝史郎氏	原稿用紙	3
自筆資料	大町桂月	豚の背にかささぎとまる枯野かな	短冊	1
自筆資料	青木郭公	後ろしなに家鴨流るる…	短冊	1
自筆資料	臼田亜浪	鶉(ひよどり)のそれきり鳴かず雪の暮	短冊	1
自筆資料	与謝野晶子	山づくし神の声の港悲し…	短冊	1
書簡	吉井 勇	島田 藤 宛	封書	6枚(便箋)
自筆原稿	船山 馨	『運算』と『半獣神』	原稿用紙	3枚
自筆原稿	船山 馨	レヴィウ白薔薇の唄	原稿用紙	61枚
書簡	早川三代治	奈良勝美宛	封書	2枚(便箋)
自筆原稿	久保 栄	『神聖家族』断想	原稿用紙	34枚
自筆資料	葛廻家二瓢	句帳(丁酉初冬起)	綴本	1
自筆資料	河東碧梧桐	ひるの酒さめてもどる…	短冊	1
自筆資料	巖谷小波	車曳く犬ははらみて…	短冊	1
自筆資料	内藤鳴雪	我邦のおとこそ…	短冊	1
自筆資料	村上鬼城	谷の日のところからさすや…	短冊	1
自筆資料	日野草城	梅日和葛城は雪を…	短冊	1
自筆資料	竹下しづの女	緑陰や矢を獲て鳴る…	短冊	1
自筆資料	鈴鹿野風呂	高松に語りかさねて…	短冊	1
自筆資料	長谷川素遥	みいくさは酷寒の野を…	短冊	1
自筆資料	野村泊月	かくれ家の朝戸より見え…	短冊	1
自筆資料	青木月斗	海水浴の幾人乃…	短冊	1
自筆資料	勝峯晋風	日輪を咲き曇らす…	短冊	1
自筆資料	山口青邨	螢火や飯盛女飯を盛る	短冊	1
自筆資料	富安風生	刈り束ねある枯蘆のかく長く	短冊	1
自筆資料	牛島騰六	はれぬきて風花軽し…	短冊	1
自筆資料	藤田旭山		短冊	1
自筆資料	土岐練太郎	拓農列なす冬日の縞の青深め	短冊	1
自筆資料	水野波陣洞	春愁の手紙の封を切りて癒ゆ	短冊	1
書簡	和田芳恵	和田義雄宛	はがき	1
自筆資料	札幌吟社	第七会月次句集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	第七回月次句集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	第三十回句集父母庵雷山宗匠撰	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社三十九回 三十八年二月	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	第二十六回月次句集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	第廿六回月次句集	綴本	1
自筆資料	札幌連吟会	春午題	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	鎮月庵 結字夏季十題集	綴本	1

種 別	作 家 名	資 料 名	形 態	数 量
自筆資料	札幌吟社	蜂須賀候附点結字夏季十題集	綴本	1
書籍	札幌吟社	松隣軒竹友居士三回忌福句集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	二題集	綴本	1
書籍	札幌吟社	美桜集	綴本	1
書籍	札幌吟社	千代見草	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	(タイトルなし)	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社月次集 第式十九回	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	あとし 第壹巻第壹号	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	(追加)	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	句帳 (タイトルなし)	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	八池の	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	沖芝集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	川乃光集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社第十九回句集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社第廿五回月並句集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社月次句集 (三百式拾句)	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社第拾一回月次句集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	即吟集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社月次句集 (式百四十句)	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	第八回月次句集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社臨時句集 其角堂機一	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社臨時句集 其角堂機一	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社第廿九回月次句集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	第二十三回札幌吟社月次句集二百集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社第拾参回月次句集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社三十九回	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社月次句集 (三百二十句)	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	札幌吟社例會集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	第十五回句集	綴本	1
自筆資料	札幌吟社	募集俳句163	綴本	1
自筆原稿	小田観螢	短歌と人生	原稿用紙	15枚(200字詰)
自筆原稿	中村武羅夫	じゃがいも・唐きび・南瓜	原稿用紙	5
自筆原稿	亀井勝一郎	自著を語る	原稿用紙	3 (200字詰)
自筆原稿	中谷宇吉郎	尻馬	原稿用紙	4 (400字詰)
自筆原稿	中谷宇吉郎	竹の家	原稿用紙	3 (400字詰)
書簡	宮 柊二	小田観螢宛	原稿用紙	2 (原稿用紙)
自筆原稿	伊藤 整	一種の奇蹟	原稿用紙	2 (400字詰)
自筆原稿	森田たま	人生の暮れ	原稿用紙	8 (400字詰)
書簡	亀井勝一郎	川上喜久子あて	封書	4
自筆原稿	伊藤 整	芥川龍之介	原稿用紙	26 (200字詰)
自筆資料	長谷川零餘子	冬海や岩に登りて下駄をぬぐ	短冊	1
自筆資料	高野素十	萩多し甚多しと思ふ旅	短冊	1
自筆資料	吉岡禪寺洞	まつしろき・・・	短冊	1
自筆資料	原 石鼎	牡丹の・・・	短冊	1



紀要第1号

紀要第1号の発行

『北海道立文学館紀要』第1号を下記の体裁・内容で発行した。

- ・体裁：B5判、本文34頁

目次

- ・発刊の辞 木原 直彦
- ・船山 馨一初期劇作とその周辺 永野 曜一
- ・島木健作「住所録」の年（時期）
特定に関する考察 田沢 義公
- ・高橋留治遺品寄贈資料の概要
—昭和62年以降ミツ夫人よりの寄贈分— 小川眞智子

■北海道文学ライブラリーの発行

北海道文学ライブラリー第1集『船山馨一北の抒情—』を下記のとおり発行した。

- ・編集：財団法人北海道文学館
- ・発行：北海道新聞社
- ・体裁：新書判、174頁（グラビア8頁を含む）
- ・執筆者：朝倉賢、川西政明・川西阿貴、神谷忠孝、八木義徳、小松伸六、原田康子、渡辺淳一、小笠原克、八重樫實

■ 平成 7 年度文学館利用状況 ■

展覧会別観覧状況

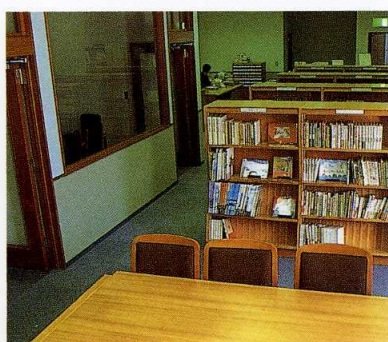
区 分	常 設 展 示	所 蔵 品 展	特 別 企 画 展	計	母と子の文学のつどい
	北海道文学の流れ	私の愛した抒情詩人たち	北の夜明け		よろこそ、賢治の教室へ
会 期	9/23～3/31	1/16～3/17	9/23～11/3		3/26～4/7
開 催 日 数	152	53	34	239	12
観 覧 者 総 数	9,369	951	3,983	14,303	999
有 料 人 個	一 般	5,109	537	2,534	8,180
	高 大 生	745	48	113	906
	小 中 生	183	6	67	256
	小 計	6,037	591	2,714	9,342
有 料 団 体	一 般	1,030	110	507	1,647
	高 大 生	279	0	265	544
	小 中 生	13	0	1	14
	小 計	1,322	110	773	2,205
無 料	免 除 者	1,333			1,333
	招 待 者	677	250	496	1,423
	計	2,010	250	496	2,756



常設展示室

閲覧室利用状況

	来室(人)	1日平均	レファレンス(件)	1日平均	閲覧申込(件)	1日平均
平成7年4月	—	—	—	—	(1)	—
” 5月	—	—	—	—	(3)	—
” 6月	—	—	—	—	(0)	—
” 7月	—	—	—	—	(1)	—
” 8月	—	—	—	—	(1)	—
” 9月	240	40.0	22	3.6	8 (1)	1.3
” 10月	1,141	45.6	57	2.3	29	1.2
” 11月	766	31.9	38	1.6	22	0.9
” 12月	299	13.0	12	0.5	7	0.3
平成8年1月	238	9.9	13	0.5	14	0.6
” 2月	294	12.2	25	1.0	14	0.6
” 3月	438	16.2	29	1.1	25	0.9
計	3,416	24.1	196	1.5	119 (6)	0.8

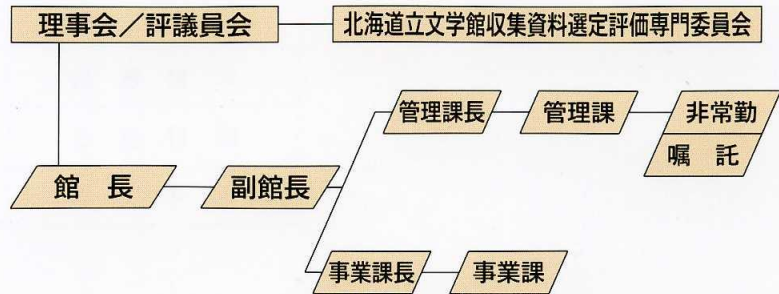


閲覧室

※()内の数字は開館準備期間中に申込みのあったもの。

■ 組織及び職員 ■

組織機構図



財団法人北海道文学館役員の状況（平成7年度）

役職名	氏名	常勤・非常勤	就任年月日	新任・再任	備考
理事長	澤田誠一	非常勤	H7.4.1	再任	作家
副理事長	河邨文一郎	非常勤	H7.4.1	再任	医大名誉教授
副理事長	中山周三	非常勤	H7.4.1	再任	歌人
副理事長	園田喜武	非常勤	H7.4.1	再任	俳人
副理事長	木原武男	非常勤	H7.4.7	再任	館長
専務理事	西村信	非常勤	H7.4.1	再任	副館長
常務理事	納谷信二	常勤	H7.4.7	新任	副館長
理事	朝倉賢	非常勤	H7.4.1	再任	団体役員
理事	小笠原克	非常勤	H7.4.1	新任	大学教授
理事	神谷忠孝	非常勤	H7.4.1	再任	大学教授
理事	木村敏男	非常勤	H7.4.1	再任	俳人
理事	工藤欣彌	非常勤	H7.4.1	再任	作家
理事	島安	非常勤	H7.4.1	再任	俳人
理事	高橋良雄	非常勤	H7.4.1	再任	作家
理事	高島二郎	非常勤	H7.4.1	再任	評論家
理事	田村哲三	非常勤	H7.4.1	再任	歌人
理事	辻脇啓一	非常勤	H7.4.1	再任	俳人
理事	永井浩	非常勤	H7.4.1	再任	詩人
理事	村井宏	非常勤	H7.4.1	再任	会社役員
理事	山名康郎	非常勤	H7.4.1	再任	歌人
監事	佐藤次郎	非常勤	H7.4.1	再任	俳人
監事	平中忠信	非常勤	H7.4.1	再任	児童文学者

■北海道立文学館収集資料選定評価専門委員会(平成7年度)

氏 名	所 属 等
神 谷 忠 孝	北 海 道 大 学 教 授
小笠原 克	藤 女 子 大 学 教 授
木 村 敏 男	俳 人
田 村 哲 三	歌 人
永 井 浩	詩 人

■職員名簿(平成7年度)

職 名	氏 名
館 長	木 原 直 彦
副 館 長	西 村 信
副 館 長	納 谷 信 二
管 理 課 長	小 川 常 明
主 査	扇 谷 悟
主 任	中 野 公 徳
事 業 課 長	永 野 曜 一
学 芸 員	平 原 一 良
学 芸 員	小 川 眞 智 子
主 任	田 澤 義 公
司 書	小 川 靖 子
主 任	寺 沢 寿 子
主 任	宮 坂 頌 子
主 任	岡 本 茂 子
主 任	丹 伊 田 範 子
主 任	櫻 英 理 子
主 任	米 澤 眞 澄
嘱 託	高 橋 寿 美

平成7年度年報

北海道立文学館

HOKKAIDO MUSEUM OF LITERATURE

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番4号

TEL (011) 511-7655 FAX (011) 511-3266